

「親しき仲にも・・・」

新年明けましたおめでとうございます。

二学期の終業式では、年末年始の過ごし方を考えるなかで、想像力、判断力を鍛えてもらいたい、という話をしました。どのような年末年始だったでしょうか？

私は、ほとんどの時間を家族だけで過ごし、じっくり1年を振り返りながら、平凡な日常が戻ってくる新たな年になってほしい、そうしたい、そうするために自分にできることを精一杯やろう、と決意しました。

思えば、今年でこそ、親戚などで集まる機会が持てなかったものの、40歳代以上の者にとっては、街中がひっそりとした正月3が日の様子は、ただ単に元に戻っただけです。調べてみると大手スーパーが元日から営業を始めるようになったのは1996年、ほんの25年前のことでした。生徒の皆さんにとっては、元日も日常的な経済活動、社会活動の連続の中にあることが、生まれた時からの「当たり前」なのかもしれません。でも、その「当たり前」を否定したところから見えてくる生活のあり方を親から聞いたり、想像してみたりするのもいい経験かと思います。

さて、1月4日にGoogle Classroomで配信しましたが、今日の始業式よりも前に、一足先に活動を始めた部活動に関して、改めて感染症対策をお願いしたところです。運動中は「マスクをつけなくてよい」ということが、運動中は感染しないということではない、という点を勘違いしないよう、重ねて注意しておきたいと思います。文部科学大臣も、部活動については、集団内での感染拡大の可能性があると、「特に高校では、感染リスクの高い活動を一時的に制限することも含めて検討するなど、感染症への警戒を強化してほしい」と呼びかけています。一方で、緊急事態宣言が再度発令されても、一斉休校を要請する考えはない、「大学入学共通テスト」も予定通り実施する、とも表明しました。このことも、学校では感染しない、感染が拡大するリスクはない、という意味では決してありません。むしろ、リスクはあるけれども、最大限の対策をとったうえで、実施する必要性を優先するということです。

また、友だち同士や、部活動仲間で誰かが感染したとしたら、家族同然だから自分も濃厚接触者になってもやむを得ない、という気になっていませんか。自分たち同士はそれでいいかもしれませんが、自分の後ろには家族がいるのと同じで、友だちのその先には、高齢の家族や受験を控えた兄弟姉妹がいるかもしれません。ギリギリのところで頑張っている医療関係者もいるかもしれません。友だち同士でも、部活動後の部室の中でも、会話をするときはマスクをする、できるだけ距離をとる。目の前の友だちの、その先にまで想像力を働かせて、「親しき仲にも感染症対策あり」という姿勢で行動してください。

抑制する方向の話ばかりしてきましたが、今の状況だからこそ見えてきたこともたくさんあります。一番大きな収穫は、あらゆることを「目的」と「手段」に区別して、これまで「当たり前」にやってきたことを、「手段」をかえて同じ「目的」を達成できるよう、工夫をするようになったことでしょうか。このことで「目的」がより明確になったことも多いのではないのでしょうか。なかには、「当たり前」と思ってやってきたけど、やらなくてもよかったじゃないか、と思い切って切り捨てられた無駄もあったことでしょうか。「目的」と「手段」を区別して柔軟に「手段」を変えられる人が、コロナの先の社会を切り拓いていきます。もうしばらく、その工夫を試せるチャンスが続きそうです。今を、これから先を、ポジティブにとらえて進みましょう。

「明けない夜はない、止まない雨はない」とはよく聞きますが、カリスマホストのローランドさんは、こう続けています。「明けない夜はない、と待っている時間があるのなら東へ行く。止まない雨はない、と思う暇があるのなら雲の上に行く努力をする。」

この言葉を糧に、三学期も頑張っていきましょう。